

# 岡山朝日高校における「家庭基礎」の授業

～ コロナ禍の3年間を振り返り～

令和2～4（2020～2022）年

大 橋 陽 子

岡山朝日研究紀要 第45号（2024年3月）抜刷

〒703-8278 岡山市中区古京町2-2-21

# 岡山朝日高校における「家庭基礎」の授業

～コロナ禍の3年間を振り返り～  
令和2～4（2020～2022）年

家庭科 大橋 陽子

## 1 はじめに

平成元年大学卒業後、定時制の倉敷市立玉島高校に赴任、その後、邑久高校、興陽高校、岡山南高校と長年専門学科で勤務、令和2年4月、コロナ禍で先の見えない不安を抱えながら母校である岡山朝日高等学校に赴任した。3月末、面接に来校した際は桜の美しさにうっとりしたのもつかの間、前任の加藤先生との引継ぎは3時間以上にわたり、途中から耳鳴りがし始め、帰りを見た桜はモノクロであったことを今でもはっきり覚えている。

学習指導要領において、「総授業時数のうち、原則として10分の5以上を実験・実習に配当すること」とあるにもかかわらず、調理実習はもちろん向かい合っただけのグループワークもできず、苦悩した日々は教員生活で経験したことのない異質なものであった。毎日記録し綴ってきた自らの授業を振り返り、今後さらによりよい授業をしていくため3年間をまとめてみた。

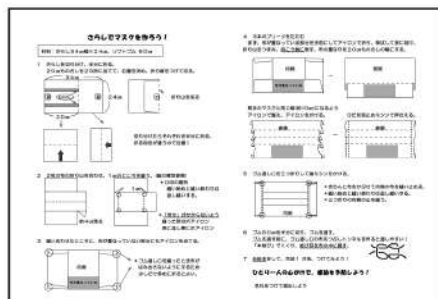
## 2 令和2年度の取り組み

### (1) 1学期

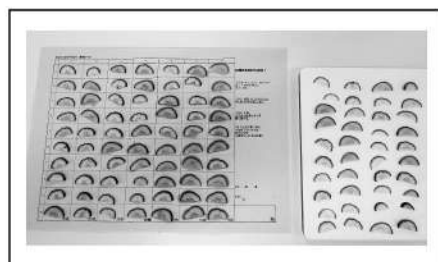
前任の加藤先生が残してくださった資料を基に授業計画を作成するも、4月に1回授業をした後、5月いっぱい休校となった。その1回目の授業では、市場で不足していたマスクを晒（さらし）で製作させた。手持ちの不織布マスクを分解し、晒で試作、段階標本と製作プリントを作成、品薄になっていた晒とソフトゴムを何とか購入し授業に臨んだ。その後、休校中に教職員対象のマスク作り講習会を開催した。

休校中はエキスパートの水島さんにお手伝いいただき、実習室の片付けと掃除に明け暮れた。また、実習やグループワーク、清掃時に移動できるよう家庭実習室の机にコマをつけていただき大変便利になった。

休校中に、家庭科調理技術検定4級の内容である「きゅうりの半月切り」の課題を出したところ、生徒にも保護者にも思いのほか好評であったため、実技テストを行った。競争心の強い男子が多く、最高記録を出そうと躍起になる姿に危険を感じ、途中からは記録は非公表とし、怪我をせず目標である「30秒で0.2cm以下の厚さを40枚」を達成するよう呼び掛けた。課題をきっかけに、台所に立つことが習慣化し自分で昼食を作る生徒もいた。また、休校で実施できなかった「家族」分野の家事分担については新聞記事を用いてレポートを作成し、取り組ませた。



さらしで作るマスクのプリント



きゅうりの半月切り実技テスト

例年実施してきた三勲幼稚園訪問は実施できず、保育分野では、男女とも全員が妊婦体験、新生児人形を抱くことで命の尊さ、親になること、自分がどれほど大切に生まれたのかに気づいた様子であった。

妊婦体験用のエプロンは前任の加藤先生が手作りされたもので、新生児人形と共に普通科高校において実習体験のための備品が充実しているのは珍しく、大変有難く感じた。

絵本の読み聞かせや折り紙では、童心に戻って体験すると同時に、毎日読み聞かせをしてくれた親への感謝も感じた様子であった。普通科に赴任されている家庭科の先生方と連絡を取り合い情報交換した中からヒントをもらい、「色水による紙おむつの吸水実験」も実施した。進化し続ける紙おむつの性能を知り、研究に携わるかもしれないこと、子育てや親の介護・自らが介護される際のこと等、未来の自らの姿に思いを馳せる生徒たちの感性に感激した。

調理実習ができることを願いつつ、実習で着用するためのエプロンを製作した。休校期間に業者からサンプルを取り寄せ試作を繰り返した結果、ボタン付けと裾の三つ折り縫い、ポケットつけをするだけの2回で仕上がるものを採用することにした（授業時間が限られているため）。スムーズに実習を進めるためのアイロンやミシンの配置を考え、特にアイロンについては、電源を入れる順序を決めるなど苦労した（プレーカーがすぐに落ちてしまうため）。また、スクリーンがなかったため、黒板とホワイトボード、実物投影機とモニターをフル活用した上、作業工程段階に応じて同じ説明を4回行い進度に合わせて見に来させるようにした。

小学校で習っているはずのボタン付けも普段針や糸を使うことのない生徒にとっては困難を極め、完成時には大きな達成感を感じたようである。一人ずつ写真を撮り、完成後は調理実習ができる希望を持って年度末まで預かった。写真を評価表の裏に貼って返却すると、生徒は大変喜んだ。

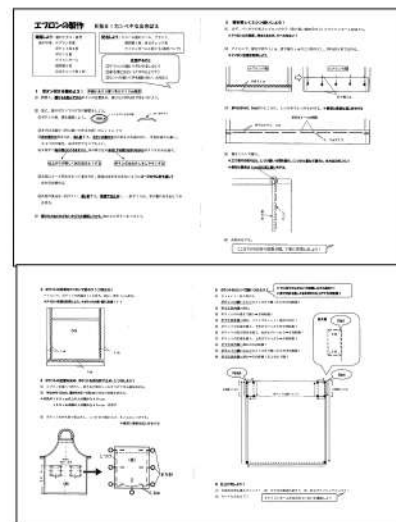
他校の家庭科の先生との情報交換や前々任の大西先生と話をした際、夏休みを前に清涼飲料水の糖度を見る実習を行うといいと教えていただき、タイミングよく休校中の片付けで糖度計を発見したので、図書館で糖度計測に関する書籍を借り、清涼飲料水の糖度を見る実習を実施した。大量に飲んでいる清涼飲料水に含まれている砂糖の量に驚き、多くの生徒が意識して夏を過ごしたようだった。



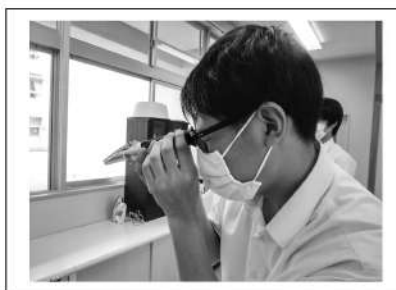
新生児人形抱っこ体験実習



絵本の読み聞かせ実習



エプロンの製作プリント



清涼飲料水の糖度をチェック



## (2) 2学期

夏休みの課題「ホームプロジェクト（以下、HP）」は、小・中・高の家庭科で学んだ衣・食・住・保・福祉等、各分野の内容をもとに各自の家庭生活を見直し課題を見つけ、2週間ほどかけて課題解決に向けて取り組むという家庭科における重大な課題である。1学期休校明けに説明し、提出された計画を添削し一人ずつコメントしながら返却したところ、非常にレベルの高い内容であった。この年は夏休みがほとんどなかったにもかかわらず、課題にきちんと取り組む生徒の意識と能力の高さに感激し、校長面談ではレポートのコピーを見ていただいた。「自分の部屋を片付けました」というような、良くない例で挙げた内容を平然と発表する生徒もいたが、記録を取りデータ分析をし、改善前後の写真を撮り分かりやすくまとめたものもあった。2学期初めの授業では全員実物投影機でレポートを映し出しながら発表させたが、お互い大変刺激を受けた様子であった。テーマの一例を挙げる。

- ・衣生活分野：「古着をリメイクしたエコバッグを作り」「余り布で校章入りのマスク作り」
- ・食生活分野：「妹の好き嫌いをなくす」「メタボ気味な父の食生活改善」「家族のお弁当作り」
- ・住生活分野：「網戸作り」「ビオトープ作り」「ごみの減量化」
- ・保育分野：「いとこへの知育おもちゃ作り」「妹への絵本作り」
- ・福祉分野：「祖母への自助具作り」「病気の後遺症がある母の生活向上に向けての取り組み」

後日談となるが、朝日高校を訪れた男子卒業生との会話で、「家庭科のホームプロジェクト以来、毎日食後の洗い物は続けていた。良いきっかけになった。」と言うのを聞いた。「日々の授業で終わらせず、実際に行動を起こしてこそ意味がある。」「生きる術を身に付ける大切な教科です。」と語ってきたことが少し実を結んでいる気がして嬉しく思った。

夏休み課題のHP発表後、高齢者の身体の変化を学ばせ、高齢者疑似体験の実習をした。核家族化により身近に高齢者がいないため高齢者の心と体の変化を体験させることができ、同時に自分の将来のためにどのように備えていくべきかを考えることができた様子だった。この疑似体験では、高齢者のみならず、病気や事故で生活が困難になった場合も想定させることができる。数に限りがあるため、時間を計測しながらすべての体験ができるよう工夫した。

認知症や高齢者の孤独死、高齢者虐待等について新聞記事を読ませ、高齢者虐待は施設職員より息子によるものが最多という事実も知らせ、何が課題なのか、どう解決するか考えさせた。

例年、2学期からは調理実習が実施されていたが、到底できそうにないため過去の指導資料は参考にできず、食生活分野では一通り食生活や栄養に関する講義を終えた後、17歳男子の1日の食品群別摂取量の目安を満たす献立作成をさせた。図書の井上先生にお願いし、県立図書館から関連書籍を借りていただき、食材の旬や料理の種類（和洋中など）、調理法（炒・揚・茹・和など）も考慮しながらグループワークで作成し実物投影機でプレゼンテーションさせた。献立作成をさせると摂取量を満たすため食品の量やバランスを無視し数値合わ



高齢者疑似体験 ゴーグルを使う様子



献立作成後のプレゼンテーションの様子

せをしがちであるが、生徒たちは指示通り食品成分表や資料集も駆使し課題をこなしていた。また、発表の中で日々栄養バランスを考えて食事を作っている家族への感謝の気持ちもコメントするなど上出来であった。

調理実習の実施を諦めきれず、空き時間には短時間でできる内容の検索や試作を繰り返していた。

衣生活分野では繊維の吸水実験、しみ抜き実習、界面活性剤の働きを知る実験により、繊維の性質や取り扱い方を知らせ、ファストファッションと資源、ダーニング（繕うこと）についても紹介し、自分たちが着ているものについて、どこで・誰が・どんな労働条件の下で作られているのか、シミがついたり少々ほころびたりしたものをすぐに捨てる生活はどうか考えさせた。

卒業生の保護者と話す機会があり、大学生になると制服がないので毎日服選びが大変なため、是非とも授業でコーディネートについて取り上げておいて欲しいということで、雑誌を借りてお気に入りコーディネートを選ぶグループワークをした。折しも卒業生が男性向けファッション雑誌のモデルに選ばれ雑誌に載っていたので、大変盛り上がった。

マナーについても触れておこうと思い、冠婚葬祭のしきたりや服装、お見舞いや訪問のマナー、水引や金封の意味と使い方、招待状等の返信方法、畳の間での歩き方や挨拶の仕方を師範し、和洋食のマナーのDVDを視聴させた。

12月に授業アンケートが実施され、授業への満足度について令和元年度との格差に打ちのめされた。調理実習5回と未実施との差だけではないはずで、何が足りないのか、どうすればよいのか、試行錯誤しながら実施してきた授業を振り返った。

### (3) 3学期

新年なので日本の食文化を知り継承する意味でのおせち料理に込められた意味と各地のお雑煮を紹介し、自分が食べたお雑煮について紹介し合うグループワークを実施した。各家庭のそれぞれの特色が分かり、興味深かった。

家庭経済分野では、導入として全国銀行協会発行の「マネープランゲーム」をグループワークで実施し、将来の生活設計やリスク管理の大切さを知らせた。また、生命保険文化センター発行「君とみらいとライフプラン」を使用し、ライフプランシートに記入させた。自分の将来について、夢を抱きどんどん書き進めることのできる生徒は少数で、大学卒業後の自分の姿を全く思い描けない生徒が多く、普通科だからこんなものなのか？とも感じつつ、もっと自信を持って自らの道を大胆に切り開いていって欲しいと願った。しかしながら、具体的に何をしたいのか高校2年生で考えている生徒の方が少ないのが現実かもしれない。

消費者庁より届いた「社会への扉」やDVDにより、契約や契約解除、多重債務、消費者トラブルや相談窓口についての講義をした上で、消費者として持続可能な環境づくりを目指すため、ポチ袋作り、風呂敷包み実習を行い、徳島県上勝町のごみ分別紹介動画を視聴させた。風呂敷包みで実習した包み方で図書館へ本を返却に行った生徒がいると井上先生から伺い、早速実践したことを嬉しく思った。



繊維の吸水実験の様子



しみ抜き実習



1月の職員会議にて、文部科学省からの文書が示され、調理実習を実施することは困難であると分かり愕然としたが、焼き菓子を焼き持ち帰らせるのであれば、何とか実施できるのではないかと考え、試作を繰り返した。その中の一つ、本校卒業生である多田千香子氏の著書からのレシピをエキスパートの水島さんと共に試作してみた。試作品と指導案とレシピを管理職の先生方に見てもらい、県教育庁指導課の山本先生にも掛け合っていた。結果、実現には至らなかったが、多忙を極める中、先生方が検討し、指導課にまで掛け合ってください、有難かった。

住生活分野ではサザエさんの家の間取りから現代の生活への改善提案を考えさせ、快適に暮らすための住まいのメンテナンスや住まいの賃貸借契約等についてDVDを視聴させた。防災については岡山市からハザードマップを取り寄せラミネートし、岡山朝日高校の位置や、自宅の位置を確認させた。また、古新聞を使用した防災スリッパづくりも実習した。

年度末、教科としての授業アンケートを実施し、1年間のまとめとした。「調理実習をしたかった。」は、ほぼ全員の生徒が書いていたが、密を避けるためになかなか実施出来なかったグループワークについても、もっとしたかったとの感想が多かった。また、DVD視聴や実物投影機による説明に使用していたモニターについても、小さく見にくいという感想があった。十分満足とはいえない授業の評価の一方、「提出物へのコメントが嬉しい。」「N a v i (大橋の一押し資料集)は大学に合格出来たら下宿に持って行きます。」「様々なことを考えるきっかけになりました。」という感想や、わざわざ付箋をつけて「一番楽しみにしている授業でした。」「卒業後も習った事や将来について考えたことを忘れず生きていきたいです。」との感想もあり、元気づけられた。

3月、赴任以来懇願してきた立派なプロジェクターとスクリーンが家庭実習室に設置された。机のコマ設置、除湿器購入、ダンゴムシの忌避剤散布等、管理職の先生方や事務室の方々、エキスパートの水島さんのご理解ご協力のおかげで、学習環境の整備が随分と進んだことに深く感謝している。

## 2 令和3年度（前年度と異なる点のみ）

### (1) 1学期

4月、新しく設置していただいたプロジェクターとスクリーンを使用し、授業ガイダンスを行うことができ感激だった。

令和2年度末の授業アンケートの実施結果をもとに、授業前アンケートを実施した。出身中学校によりあまりに体験内容やレベルが違うことに改めて驚いた。

令和2年度に休校によりできなかった家族の分野でのワーク・ライフ・バランス、家事分担については、岡山市配布の男女共同参画情報誌、「DUO」からプリント作成し色塗りをさせた。家事分担のバランスを可視化でき、自分自身の家事参加について振り返り反省するきっかけとなり、HPのテーマとした生徒も多かった。

ゴールデンウイーク課題としてきゅうりの半月切りの説明をする際、スクリーンに大きく映し出される動画は大変見やすく、理解度が上がったように感じた。ゴールデンウイーク明けから実技テストを実施、欠席者は中間考査最終日に追試を実施した。この課題は、ただ「きゅうりを切ることができるようになる」ことが目的ではなく、日々食事を準備してくれる



家族への感謝、練習の積み重ねで技術が向上することは日々の学習へ向かう姿勢にもつながること、コツコツ練習し実技テスト本番を迎えるという計画性や備えの大切さなど今後の生き方にもつながっていくこと等、様々なことを感じて欲しいという思いも伝えるようにした。

妊婦体験では、双子の生徒が複数いたため、該当生徒には二人分の重りを入れて重さを体感させた。妊婦体験や新生児人形抱っこ実習は、家庭で話題にする生徒が多く、きゅうりの半月切りに続き、家族との会話が弾んだ様子だった。読み聞かせは、図書の井上先生にお願いし県立図書館から読み聞かせ用に絵本を借りていただき、懐かしの一冊との再会に感激し読み聞かせをし合う生徒の姿がほほえましかった。



妊婦体験をする双子の生徒

三歳幼稚園との交流は実施困難であるため、何か生徒にできることはないか問い合わせたところ、折り紙で手裏剣を折って欲しいとの依頼があり、手裏剣をはじめ、様々なものを箱一杯にして幼稚園へ持参した。

エプロン製作は前年度の反省を生かし、少し時間はかかるが裾の三つ折り縫いはしつけ縫いをさせた。このことにより、仕上がりは格段に向上した。

また、業者からミシン系の代わりにワッペンをもらい、余裕のある生徒はアイロンや手縫いでつけ、個性的に仕上げ満足気であった。

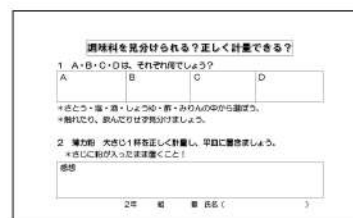
## (2) 2学期

夏休み課題のHP発表は、前年度同様2学期初めの授業で実施したが、大きなスクリーンに映し出されるレポートや記録写真は見やすくなった。次年度からはクロームブックによるスライド作成とプレゼンもできるようになると嬉しく思った。また、献立作成後のプレゼンテーションも、各班で作成した献立や引用した文献を大写しにでき、好評であった。



献立作成後のプレゼンテーション

調理実習はまだまだできそうにないので、食材の切り方や調理の下ごしらえについてのDVDを視聴させつつ、教室の後方で塩・砂糖・みりん・酢の調味料当てクイズ、計量スプーンを使った薄力粉の計量実習を5～6人の班ごとにさせた。



調味料当てクイズと計量のプリント

11月1日から「活動レベル1」に引き下げられたため、前年度から試作検討し続けた中から、本校卒業生である多田千香子氏の著書からマドレーヌを焼き、家族へのメッセージカードをつけラッピングして持ち帰らせることにした。指導案やレシピ、実習室レイアウト等を県教育庁指導課の山本先生にも再度見ていただいた。失敗なく短時間で実施するために、他ページに掲載されていた新聞紙で作った紙箱に生地を流し込む方法を採用した。図書館で英字新聞を分けていただき、紙箱を折らせてケーキ型として下準備をさせておいた。調理台1台につき2人ずつでの実施しか許可されないのは変わりなく、35分×3回転での実習とした。待ち時間は、予習・DVD「和食、洋食のマナー」視聴、実習後のまとめをさせた。



事前説明スライド投影の様子

岡山南高校に依頼し、保護者宛の文書ひな形をもらい作成し、校内起案後、生徒経由で配布、担任の先生方にも配布した。しかし、うっかり保健室への相談・報告を怠っており、欠席がちな生徒が保護者宛文書を渡さず、説明を聞かない状態で調理実習に参加し、保護者対応等で大変なご迷惑をおかけし反省した。

指導案の作成、食物教室のレイアウト、試作をしながら写真を撮り、説明のためのスライドを作成し、一人ずつの材料分けを水島さんにご協力いただきながら下準備を行い実現にこじつめた。準備に時間をかけた調理実習であったが、アレルギー対応等、課題は山積であった。また、ふきんの洗濯のため洗濯機と乾燥機をフル稼働で使用していると食物教室に置いてあった乾燥機から床に水が漏れ、準備室にラックを設置し洗濯機の上へ移動してもらうとともに、老朽化していた洗濯機も更新していただき、衛生面も改善された。

実習後に多田千香子氏にメールを送り、調理実習の様子をお伝えすると図書館に著書があることに驚かれ、実習で取り入れたことを大変喜んでくださった。

### (3) 3学期

経済分野は18歳で成人となる該当年度だったので様々な資料や新聞記事も豊富で、契約や多重債務、若者が陥りやすい商法等についてしっかり伝え考えさせた。前年度の教材に加え、日本クレジット協会からクレジットカードの見本を取り寄せ、署名させ帰宅してハサミで切る実習をした。

住生活分野では、賃貸借契約や退去時のトラブル、ハザードマップの確認等、住まい選びのポイントを防災も絡めて指導した。

## 3 令和4年度（前年度までと異なる点のみ）

一人一台端末を活用しての授業展開となり、情報の齋藤美奈先生に大変お世話になった。しかしながら端末を活用しようにもWi-Fi環境が悪く、ポケットWi-Fiを2台借りて授業をするなど手間取った。

### (1) 1学期

まず、年度初めに実施していた授業アンケートをForm sにより実施した。これまでアンケートをもとに手打ちで集計していたものが一挙に%やグラフ表示され、特にアレルギーについての集計がなされることは有難かった。

前年度、家族の分野での家事分担についてはプリントに色塗りをさせたが、スプレッドシートで作成したものを生徒に配信し、各自の端末で着色後提出させた。時間の短縮のみならず、提出されたものをプロジェクターで即座に投影でき、クラスメイトの家事参加状況も分かり、かなり刺激になったようだった。

年度初めに教頭先生と一緒に三軒幼稚園へ行っていただき5月末からの幼稚園訪問を計画していたが、幼稚園児に感染者が増え、



説明スライド



調理実習の様子

家族の役割	家事の項目	担当
父	洗濯機	父
母	洗濯機	母
兄	洗濯機	兄
弟	洗濯機	弟
祖母	洗濯機	祖母
祖父	洗濯機	祖父
父	掃除機	父
母	掃除機	母
兄	掃除機	兄
弟	掃除機	弟
祖母	掃除機	祖母
祖父	掃除機	祖父
父	ゴミ出し	父
母	ゴミ出し	母
兄	ゴミ出し	兄
弟	ゴミ出し	弟
祖母	ゴミ出し	祖母
祖父	ゴミ出し	祖父

スプレッドシートを使った家事シェア色塗り



急遽中止となった。生徒はとても楽しみにしていただけに残念であった。一方、授業時数の少ない中実施しているエプロンの製作に時間をかけることができ、丁寧な仕上がりで完成した。

夏休み課題のHPのレポートは今まで通り紙媒体で後期補習時に提出、コメントをして返却した。半数以上がレポート未提出というクラスもあり、過去2年になかった状況に初めて教室に未提出者一覧を掲示させてもらったが大した効果はなかった。発表用には初めてスライドを作成させ提出させた。

## (2) 2学期

HP発表は提出させたスライドを元に発表させた。スライドのフォーマットを配布し作成させたのである程度の形は整っていたが、センスの良いスライド作成や注目を引くプレゼン力があると実施した内容よりも見応えのあるものとなり、紙媒体でのレポート提出は大切であると感じた。

食生活分野は5大栄養素についてグループワークで調べ学習をさせ、発表させた。スライドのフォーマットを配信、グループ内共有で作成、発表では全員が発言するという条件を出していたが、どのクラスも短時間で情報収集し、役割分担して作成したスライドをもとに発表する姿は生き生きとしていて頼もしく感じた。

調理実習については、相変わらず調理台1台につき2人の規定があり、前年度同様35分×3回の実習をせざるを得ないと覚悟し、前年度の反省事項に基づき、早めに準備を始めた。卵アレルギーで実習室に入れない生徒が一名いたが、その他は完成品をラッピングして持ち帰ることにしていたので大きな問題はなかった。各クラス欠席者が多く当日2人ペアの組み直しをしたり、欠席者を呼び出し材料を渡したりする対応が煩雑であった。「持ち帰って家族に食べていただく」約束が守れず、実習後にこっそり食べた生徒、また、事前に練習してくるよう指示していたが、卵を割れない生徒がいた。日々忙しい生徒たちではあるが、将来の生活を見据え、生きる力を身につけていって欲しいと思った。

1回限りの実習であったが、予習して自宅で作って参加した生徒や実習後にアレンジしながら何度も作ったことを嬉しそうに報告してくれる生徒もいた。学校で一緒に食べられなかったが、調理実習の意義深さを感じた。

幼稚園訪問の際、あやとりや指編みをするために購入していたアクリル毛糸が使えなかったため、指編みでアクリルたわし作りをさせた。指編みをするのは初めての生徒や幼稚園時以来の生徒と様々だったが、集中して無心でどんどん編み進み、たわしを完成させた。掃除等に役立て欲しいと思っている。



指編みのアクリルたわし

## (3) 3学期

新年明けに実施していたお雑煮についてのアンケートをFormsで実施、即座に画面に集計結果がグラフ化されるのは興味深く、農林水産省のHPや資料集で日本各地の雑煮の紹介や正月料理をはじめとする日本の行事食を紹介し補足説明を行い、日本の伝統食文化を継承して欲しいと語った。

経済分野では、前年度の教材を踏襲しつつ、家庭科教員研修で紹介された金融広報中央委員会「知るぼると」発行の「これであなたもひとり立ち」を初めて使用した。限られた時間で全てのページを使うことはできなかったが、一年後の受験に向け、家族への感謝やお金の価値を感じて欲しいと思い、生まれてから18歳までにかかるであろうお金の試算や、大学入学まで・入学から卒業までの授業料や生活費の試算をさせた。また、悪徳商法についてグループワークで脚本と配役を考えさせ、寸劇をさせた。短時間に授業で紹介した様々な商法についてそれぞれ設定を考え、役になりきって演じられる能力の高さに驚き、

動画を撮って先生方に見ていただきたいと感じた。

住生活では、18歳成人となり契約面での内容が更新されたので新しいDVDを購入していただき「はじめよう！ひとり暮らし」を視聴させた。前年度同様ハザードマップの確認等させるにあたり、各自の端末で志望大学に通うための物件を検索した上で、環境省の「重ねるハザードマップ」に住所を入力させ、自然災害に備えることの重要性を伝えた。

年度末に実施した授業アンケートでは、印象に残った授業について調理実習に次いで高齢者疑似体験を挙げる生徒が多く、高齢者・障がい者支援への思いと同時に自らの生活習慣について将来を見据えた生活を心掛けたいという様子が伺えた。

#### 4 おわりに まとめと今後の課題

本校では、高校卒業後に一人暮らしを始める生徒も多いので、「生活者」「消費者」としての視点を持たせることや、授業で習得した知識や技術を実生活で生かすことができる生徒を育てるのが最大の目標である。「生活する」ということに関しての興味関心や実体験があまりになさすぎるのが実状ではあるが、だからこそ、妊婦体験や高齢者疑似体験等の「なりきって」体験させ、感じさせることは大変重要である。教科書通りではなく、生きた生活・自分自身の将来について自分事としてしっかり考えさせ、自分たちが社会を作っていく担い手であることを自覚させるよう指導していきたい。

興味関心を持たせる手段として、授業に関連する新聞記事を教室のホワイトボードに掲示したり、新聞記事を読ませ考えさせたりする。また、図書館が近いので、井上先生にお願いして関連書籍を借り、教卓に並べておき紹介したり、たくさん必要な際は県立図書館から借りていただいたりと、サポートしていただけるのは大変有難い。また、一人一台端末の活用についても、「こんな使い方をしたい」と伝えると様々なアイデアや方法を教えて下さり、情報の齋藤先生には大変お世話になっている。教科担当が一人であることへの不安や責任の重さは変わらなくとも周囲の先生方やエキスパートの水島さん、事務室の方々の強力なサポートに感謝しつつ、今後も日々の学びとネットワークを大事にしていきたい。家庭科教員として常に変化していく社会へのアンテナを高くし、新しい情報を収集し提供する一方、大切に受け継いで行くべき生活文化や伝統を伝えること、また、自分自身が丁寧に生活し、失敗も含め、生の事例を示すことも大切に今後も研鑽を積みながら教員生活を送りたい。

令和5年度の2年生からは新教育課程となり、1クラス減で8クラス編成となったため授業時数も2時間減り、授業準備や片付け、提出物の添削等に充てられた。また、新型コロナウイルス類移行に伴い、赴任後初めて実施できる内容もたくさんあった。令和5年度以降については、また次の機会に記すことができると考えている。